

高等学校外国語科学習指導案

日 時 令和4年11月22日(火)
第3校時 10:50~11:40
対 象 5回生A組(35名)
学校名 登別明日中等教育学校
授業者 教諭 山 岸 充 明
場 所 本校視聴覚教室

1 単元名

コミュニケーション英語Ⅱ 「Lesson 7 The Power of Color」
教科書: Power On English Communication Ⅱ (東京書籍)

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

色の視覚的効果と心理的効果についての理解を通して、効果的な配色について考え、期待される効果について話して伝えることができる。

(2) Can-do リストとの関連 (5回生 SPEAKING (PRODUCTION))

- ・ 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。
- ・ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。

(3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色の視覚的効果と心理的効果およびその例を理解している。 ・ 配色の理由を、修飾表現を用いて示す技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な配色について考え、期待される効果について話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な配色について考え、期待される効果について話そうとしている。

3 指導にあたって

(1) 教材観

普段の生活の中で、意志や感情、情報などを相手に伝達する場合、言葉や文字を中心としたコミュニケーションを行っている。しかし、現代のように物や情報が氾濫する社会においては、言葉や文字によるコミュニケーションだけでは限界があり、絵や写真、図形、色などを用いた情報伝達が不可欠である。また、これらを用いることで効果的に相手に情報を伝えることもできている。そのような中で街中に目につくのは標識や看板など、色を利用した視覚コミュニケーションである。周囲の中からとくに目を引いたり、標識などの文字や図形の意味を明確に伝えたりするために、色の選択は重要であると言える。

また、視覚以外に心理的な効果にも配慮したコミュニケーションも行われ、商品のパッケージやデザインなどに活用されている。パッケージデザインにおいて、色は製品の内容や効果、イメージを明確にしたり、競合する製品との差別化を図ったりする目的がある。心理的な効果を利用した一例としては、部屋のインテリアデザインにも色は重要な役割を果たしている。それぞれの色がもたらす心理的効果の特徴を知っていれば、目的や用途に合わせて色を選択することができる。以上のように、色彩の効果を考えることで気づく、言葉や文字以外のノンバーバルコミュニケーションの重要性について考えさせたい。

(2) 生徒観

何事にも前向きに取り組むことができる集団である。集団内での学力差に開きはあるものの、級友間の信頼関係は厚く、普段の学習や行事に取り組む際に心理的な安心・安全の場が確保されていると言える。その結果、お互いに意見を積極的に伝え合い、学び合うことができている。また、ペアワークやグループワークのような言語活動に積極的に取り組むとともに、各々の考えや意見を発信することができる。

さらに、自ら疑問やアイデアを出して試行錯誤を重ねながら学びを深めることができ、その結果や考察を修正することを通して次に活かすこともできる。これらのやりとりを通して気づきを得ることも多いが、さらに継続した指導を重ねて、論理的かつ多角的に思考を深めるとともに豊かな表現力を育てていきたい。

(3) 指導観

言語には本来、指示や働きかけ、感情の表出などさまざまな役割があり、それらを通してコミュニケーションを円滑にしたり、希望や考え、意図を伝えたりすることができる。したがって、言語を習得するためには、本来の役割を言語が果たしているまたは言語そのものが機能していることであり、その習得を図る方法として、言語活動が必要不可欠であると考え。一方で、言語が持つ働きをより効果的なものにするためには、言語の仕組みを理解し、それらを活用することができることも重要であると考え。

4 単元の指導と評価の計画 (計 12 時間)

時間	ねらい (■), 言語活動等 (丸数字)	評価の観点			備考
		知	思	態	
導入 (1~4)	<p>■ 色の視覚的効果と心理的効果について読み取ったり、聞き取ったりする活動を通して、効果的な配色について期待される効果とともに表現することができる。</p> <p>① 色をリストアップして、その色に対するイメージをペアまたはグループで共有する。また、色を表現するための語彙をインプットする。</p> <p>② 本文の概要を読み取り、述べられている色とその効果を理解したうえで、各 Part にサブタイトルをつける。</p> <p>③ 本文の概要を読み取り、各 Part の大まかな内容を伝え合う。</p> <p>④ 本文の基本表現および文法事項についての理解を深めたうえで、表現の定着を図る。</p>	○			
展開 (5~7)	<p>⑤ 本文で述べられている内容を理解した上で、ある状況下におけるさまざまな物の配色の効果とその理由を伝える。</p> <p>⑥ 本文の内容をもとにして、身の周りにあるものの配色の影響と効果について、各々の意見を理由とともに伝え合う。</p> <p>⑦ 本文の内容をもとにして、身の周りにあるものが違う配色となっている理由を考えたり、その効果や影響について、各々の意見を伝えたりし合う。</p> <p>⑧ 色を変えることでもたらす影響について、具体例を挙げながら相手に伝えることができる。</p>	○		○	
発展 (8~10)	<p>⑨ 本文の内容をもとにして、ある商品に思いを反映させるために、効果的な配色とそれによる効果および影響を考え、理由を示しながら述べる。</p> <p>⑩ 本文の内容から発展させて、とある状況を改善させるために、効果的な色の選択について理由を示すとともに期待される状況の改善を伝えることができる。</p>		○	○	

後日	パフォーマンステスト（2時間）		○	
----	-----------------	--	---	--

5 パフォーマンステストの実施計画

領域	<input type="checkbox"/> 話すこと [やり取り] <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと [発表] <input type="checkbox"/> 書くこと
関連するCan-Doリスト	第5学年 日常的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句および表現を用いながら、論理的に詳しく伝えることができる。
指示内容	来年のクラスTシャツの色は何色にしますか。理由も含め、話しなさい。
実施方法	<p>< 1時間目 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 発表は個人で行う。 発表内容を録画したうえで提出する。 録画は決められた時間内であれば何度録画してもよいこととする。また提出の際には、その中で一番発表内容が論理的であるものや発表がスムーズに行われたものを提出する。 発表時間は45秒以上120秒以内とする。 メモは作ってよいが、リーディングとならないように最大5つのキーワードのみとする。 理由及び根拠については客観的なものとし、少なくとも2つ述べることとする。 自身の意見やその理由及び根拠について客観性を持たせるために調べてまとめさせる。 提出方法を確認する。 <p>< 2時間目 ></p> <ol style="list-style-type: none"> テーマについて確認する。 ループリックを用いてあらためて評価の観点および規準を確認する。 発表内容を録画する。 録画したものの中から提出する音源を選択して、提出する。

■ 採点の基準

単元を通して指導したことを踏まえ、次の祭典の基準によって評価する。「思考・判断・表現」については、二つの条件を全て満たしていれば「b」（おおむね満足できる）としている。

○ 「思考・判断・表現」についての二つの条件

条件1：クラスTシャツの色について示している。
条件2：なぜその色にしたいか、本単元で得た知識をもとに、理由を含め、示している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> 語彙や表現が適切に使用されている。 聞き手にわかりやすい音声等で話して伝えている。 	二つの条件を満たした上で、単元で指導されたことを踏まえ、理由を含め、自分の考えを詳しく述べて伝えている。	二つの条件を満たした上で、単元で指導されたことを踏まえ、理由を含め、自分の考えを詳しく述べて伝えようとしている。

b	<ul style="list-style-type: none"> ・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。 	二つの条件を満たして話して伝えている。	二つの条件を満たして話して伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

6 本時の展開 (6/10 時間目)

(1) ねらい

- ・効果的な配色について考え、その理由およびそれによって期待される効果について表現することができる。

(2) Can-do リストとの関連 (5回生 SPEAKING (PRODUCTION))

日常的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句および表現を用いながら、論理的に詳しく伝えることができる。

(3) 展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (10mins)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Warm-Up ・ Linking Quiz ・ 配色が変更されることへのイメージの違い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアを組み、一方がパートナーに物を伝える。パートナーはそのメインカラーを次々と答えていく ・ さまざまな物の配色が変更された例を見て、イメージの変化についてペアまたはグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までで色の名前(英語)については確認しているので、あまり時間をかけずに次の発問に進むこととする。 ・ 寿司のネタや清涼飲料水のラベルの色などが変わった場合にどのようなイメージを持つのか英語で簡単に共有する。 →ペアまたはグループで話し合わせた後に、自分の意見を Google Form の質問機能を用いて提出させて全体でいくつか共有する。
展開 (35mins)	<p>【ねらい】 京都府の工夫された配色について考え、その期待される効果やその色によってもたらされるだろうと思われるイメージについて伝えてみよう。 →単元の指導と評価の計画 展開⑦の言語活動に対応</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の提示 ・ 意見および考えの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の課題およびねらいを理解する。 ・ 本文の内容をもとにして、または活用しながら、色が変わっている理由について意見を作る。 ・ 本文で述べられていない色については、理由への客観性を持たせるために Chromebook を活用してその色が持つ心理的効果や視覚的効果について調べる。 ・ 配色が工夫されている建物の例を挙げて、配色の効果とその色が与えられると思われるイメージについてグループで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入部分とつながりを持たせながら、色が変わることの心理的変化から色を変えることでもたらされるであろう変化や効果に焦点を移していく。 ・ 色が変わることへの心理的変化(主観的視点)から色を変えることでのイメージの変化や効果(客観的視点)に焦点を当てることで、理由や根拠に客観的必要性を持たせる。 ・ 考えていくための選択肢として ① ローソン ② スターバックス ③ 佐川急便

		<p>(Chromebook を用いて情報を集めてもよい。)</p>	<p>④マクドナルド ⑤洋服の青山 ⑥タイムズ(コインパーキング) ⑦au ショップ を生徒が考えることが難しい場合の例として提示する。</p>
<p>教師からの発問の具体 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • However, you can see some shops and sites with different colors. Here is an example. This is the sign of SEVEN ELEVEN. What is a difference between two? • How do you feel when you see the sign with white and black? • In Kyoto, there are such shops and sites. So, I would like you to think of why the colors are different from what we usually see. • What do you think an effect by changing the color is? • What impression do you have on the changed colors? • What do you think Kyoto think is important? 			
<p>生徒の活動を深化させる取組 (例)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 途中でグループをミックスし、意見交流を行う。 2 中間発表を行い、他グループの考えを知る。 3 Jamboard を活用し、リアルタイムで考えの共有を図る。 4 クラウド上に、上記「教師からの発問の具体」の一つを投稿し、生徒の考えを吸い上げた上で、テキストマイニングなどを活用し、共有する。 			
	<p>• 意見および考えの共有</p>	<p>• 京都府の景観を損なわないために工夫されている配色(他の都道府県とは異なる色)の例を挙げたうえで、色の変更によってもたらされる効果とその色が与えると思われるイメージについて伝える。</p>	<p>• 伝えたい内容が聞き手に十分に伝わるものであるかを主としながら、文法の正確さや発音の正確さに過度にこだわり過ぎずに、生徒の発言および発表を傾聴したうえでやりとりへ発展させていく(ことができるとよい)。</p>
<p>まとめ (5mins)</p>	<p>• 次時の予告</p>	<p>• 次時の学習内容を教師からの発問を通して確認する。</p>	<p>• 本時の内容とリンクさせたいうえで、ある物が当たり前とされる色とは異なった場合にどのようなイメージをもたらすのかを発問として提示する。</p>